

ばんたね ネットワーク



耳鼻咽喉科のご案内

耳鼻咽喉科学教室では、総勢6名で日々の入院・外来における患者さんの診療、医学研究、学生教育に従事しております。睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群）、感染症、鼻科手術、中耳手術、頭頸部腫瘍を中心に臨床、研究を行っており、すべての耳鼻咽喉科治療に精通しています。

主な対象疾患

睡眠時無呼吸症候群、顔面神経麻痺、唾液腺疾患（良性・悪性問わず耳下腺、顎下線腫瘍）、甲状腺腫瘍、慢性副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症などによる鼻呼吸障害、真珠腫性中耳炎

医療機関さまより、当院地域医療連携センターまで予約お申し込みください。

TEL:052-323-5927・5918 FAX:052-323-5726



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
中田 誠一教授

ばんたね病院耳鼻咽喉科学教室は総勢6名で日々の入院・外来における患者さんの診療、医学研究、学生教育に従事しております。耳鼻咽喉科領域全般の診断・治療（耳科手術・鼻内視鏡手術・咽頭手術・甲状腺・唾液腺腫瘍手術・頭頸部腫瘍【良性・悪性】手術）を行い、年間600件以上の手術をこなしています。患者さん第一に、手術の適応についてなどよく話し合い、その上でどのような治療を行うか決めていきます。

また、当科に併設されている睡眠健康センターでは、睡眠呼吸障害全般の外来スクリーニング、入院にての終夜モニター検査、ねむけの検査、薬物睡眠下内視鏡検査、経鼻-CPAP使用による検査治療などを駆使し診断を正確に行ってから患者さんに最良の治療法を選択し提供しております。睡眠呼吸障害は幼少時の突然死・発育障害、成人・高齢者の高血圧、小児・成人の心肺機能不全等全身的に多くの問題を引き起こす元になるとも考えられ、日中傾眠は学業・仕事・車の運転等にも支障を来します。睡眠呼吸障害、およびいびきに関するお悩みがございましたら、お気軽にご相談ください。

睡眠健康センターについて

睡眠障害は近年注目を浴びていますが、当センターは約20年前より睡眠障害の検査・治療をおこなっています。経験豊富な睡眠認定専門医・認定技師が連携して子どもから大人まで「睡眠」にまつわる疾患に幅広く対応します。

主な対象疾患

●睡眠時無呼吸症候群

●幼少時の疾患

(睡眠が関与した発育障害、情緒障害、夜尿症、夜驚症、多動)

●成人の疾患

(高血圧、メタボリックシンドローム、成人病、胃酸食道逆流症、ナルコレプシー、むずむず脚症候群、特発性過眠症、睡眠後退症候群)



睡眠時無呼吸症候群

代表的な睡眠時無呼吸症候群は成人のみならず、幼少時(0歳から)の患者さんも幅広く受入れています。

病院に宿泊して頂き睡眠中の脳波などを計測する終夜睡眠検査(PSG)や、中程度以上の治療に使われるCPAP、喉や鼻の手術などの実績も豊富で、症状に合わせた最適な治療を行います。

CPAP

圧力をかけた空気を鼻から気道に送り込み睡眠中の無呼吸を防止する治療法です。



終夜睡眠検査 (PSG)

睡眠の深さ、睡眠中の呼吸および循環の生理現象を総合的に評価し、睡眠と呼吸の「質」の状態を調べる検査です。

火曜日から金曜日の夜に入院し、測定を行います。専用の部屋を準備しておりますので、周囲の雑音を気にすることなく、ゆっくり寛いで頂けます。

また、翌日の早朝には退院できるので、仕事や学校に支障がなく検査を受けて頂くことができます。



タイムスケジュール

～19:30 時間外受付にて入院手続き

入院病室にて、順次 器械を装着 **【検査開始】**

5:30頃 起床および器械取り外し

～6:30 帰宅



センサーについて

検査では一晩センサーを装着頂きます。すべてのセンサーを装着するには30分から60分ほどかかります。

センサーは専用のりで装着し、上からテープで補強します。睡眠中の寝返り、体動が激しい方には更に伸縮ネット、包帯などで外れにくくします。検査中の体勢は仰向き(仰臥位)でも横向き(側臥位)でも構いません。

▼装着する電極の数

頭部	8～9個	睡眠状態を確認
顔	6個	睡眠状態を確認
のど	1個	いびきの確認
胸	2～3個	心電図を確認
指	1個	酸素飽和度を確認
下肢	左右2個ずつ	脚のピクツキ感を確認

▼装着する呼吸バンドの数

胸部・腹部	2～3個	胸腹部の呼吸状態を確認
-------	------	-------------

▼装着する呼吸センサーの数

鼻・口	2個	無呼吸を確認
-----	----	--------



大腸内視鏡検査 検査予約受付しております

ばんだね病院内視鏡検査室では年間約2,000件の大腸内視鏡検査を実施しており日本消化器病学会指導医・専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医による安心安全で確実な検査・治療を実施しています。

こんな患者さんはいらっしゃいませんか

- 下剤を飲まないとお腹が出ない
- 過去に大腸ポリープをとっている
- 便潜血検査が陽性だった
- 血便がでる
- 下痢が続いている
- 腹痛がよくある
- お腹が強くなる



大腸がんに罹患する患者数は年々増加しており、早期発見、早期治療がとても大切です。是非、ばんだね病院へご紹介ください。

検査当日の流れ

前日

夕食

- 消化の良い食事をお召し上がりください。

当日

8:30

ばんだね病院総合受付へ

- 検査問診
約3時間半かけて整腸剤を内服頂き、腸の中の便を空にして頂きます。

12:00頃

検査開始

前日の食事

白米、素うどん、味噌汁、豆腐、ゼリー、お茶、コーヒーなど便になりにくく食物繊維と脂肪が少ない食事をお召し上がり頂きます。(患者さんにご覧頂く説明書を用意しております)

内服薬

基本的に全結腸の観察のみ(生検まで)を目的として検査を行いますので、種々の薬剤(抗血栓薬)の中止の必要はありません。

鎮静剤の使用

検査への不安が強い患者さんには鎮静剤を使用して検査する事も可能です。

検査結果

検査日より7日以内に報告書を郵送します。

大腸内視鏡検査予約申込み希望の場合は医療機関さまより
ばんだね病院地域医療連携センターまでお気軽にご連絡ください。

TEL:052-323-5927・5918

詳しいご案内を申し上げます。



【編集発行】



藤田医科大学ばんだね病院 地域医療連携センター

【発行年月日】 2020年1月27日

〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋3-6-10

TEL:052-321-8171(代表)・052-323-5927・5918(地域医療連携センター直通)

FAX:052-323-5726(地域医療連携センター直通) <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

